

中間評価調書

整理番号	5	研究課題名	感染症・生活習慣病における臨床分子疫学的研究 「細菌性感染症における感染経路究明のための 分子疫学・細菌特性に関する研究」
研究概要		茨城県で分離された菌株の細菌学的特性をとらえ、ソフトウェア等を用いて客観的に解析する。特に、細菌性感染症の感染経路を解明するため病原菌の遺伝子情報に基づく多型解析技術である RAPD・PFGE・AFLP の類型化による多型解析情報に基づく解析データを蓄積し、精度の向上を目指す。	
進捗状況		茨城県で分離された腸管出血性大腸菌 O157 菌 50 株を用いて AFLP 法による疫学解析を行った。 1 解析に用いる primer セットの選定 2 腸管出血性大腸菌 O157 菌株の解析	
研究の成果		解析に用いる primer を、 <i>EcoR</i> と <i>Mse</i> の組み合わせで 4 セット選択し、PFGE の DNA 型別が判明している 50 株について AFLP 法による解析を行い、PFGE 法で明らかにされている DNA 型をもって AFLP 法のピークパターンと比較した結果、AFLP 法の詳細な解析能の可能性が伺われた。	
今後の計画		前年度に引き続き、細菌学的特性を調査する。腸管出血性大腸菌については平成 14 年度分離株を用いて糖分解・薬剤耐性・PFGE・AFLP を行う。 PFGE の泳動パターン・AFLP のピークパターンを取り込みソフトウェアで相似値を解析する。 1996 年からの経時的動向にも焦点を当てる。 新たに平成 15 年度から日本の代表的な食中毒原因菌であるサルモネラの RAPD 遺伝子フィンガープリンティング解析を試み、RAPD 多型解析と類型化を行い、茨城県で発生したサルモネラ感染症に適用し、汚染源の究明に有用であることを確認する。 また、解析する菌株を増やしていくことにより解析データの蓄積と解析データの信頼性を高める。	